

【交響曲「画家マティス」の解説(絵画編)】

交響曲「画家マティス」は、画家のマティスことマティアス・グリューネヴァルト(1470/1475 年?~1528 年: 近代フランスの画家マチスではない!)が描いたドイツ絵画最高傑作の一つ「イーゼンハイム祭壇画」の3つの絵に、作曲家ヒンデミットがインスパイアされて作曲したものです。

(実はマティスを主人公にしたヒンデミット作曲(&脚本)のオペラ「画家マティス」と同時並行で作曲され、そのストーリーとの関連性もあるのですが、それは次の機会に解説します)

ちなみに『イーゼンハイム祭壇画』の詳細はこちらでご確認下さい。

<http://remove.jugem.jp/?eid=335>

では、以下にそれぞれの楽章毎に絵を示しながら解説します。

第一楽章: 天使の合奏



この絵はイエス・キリストの誕生を3人の天使達が音楽で祝っている情景を描いたとされます。

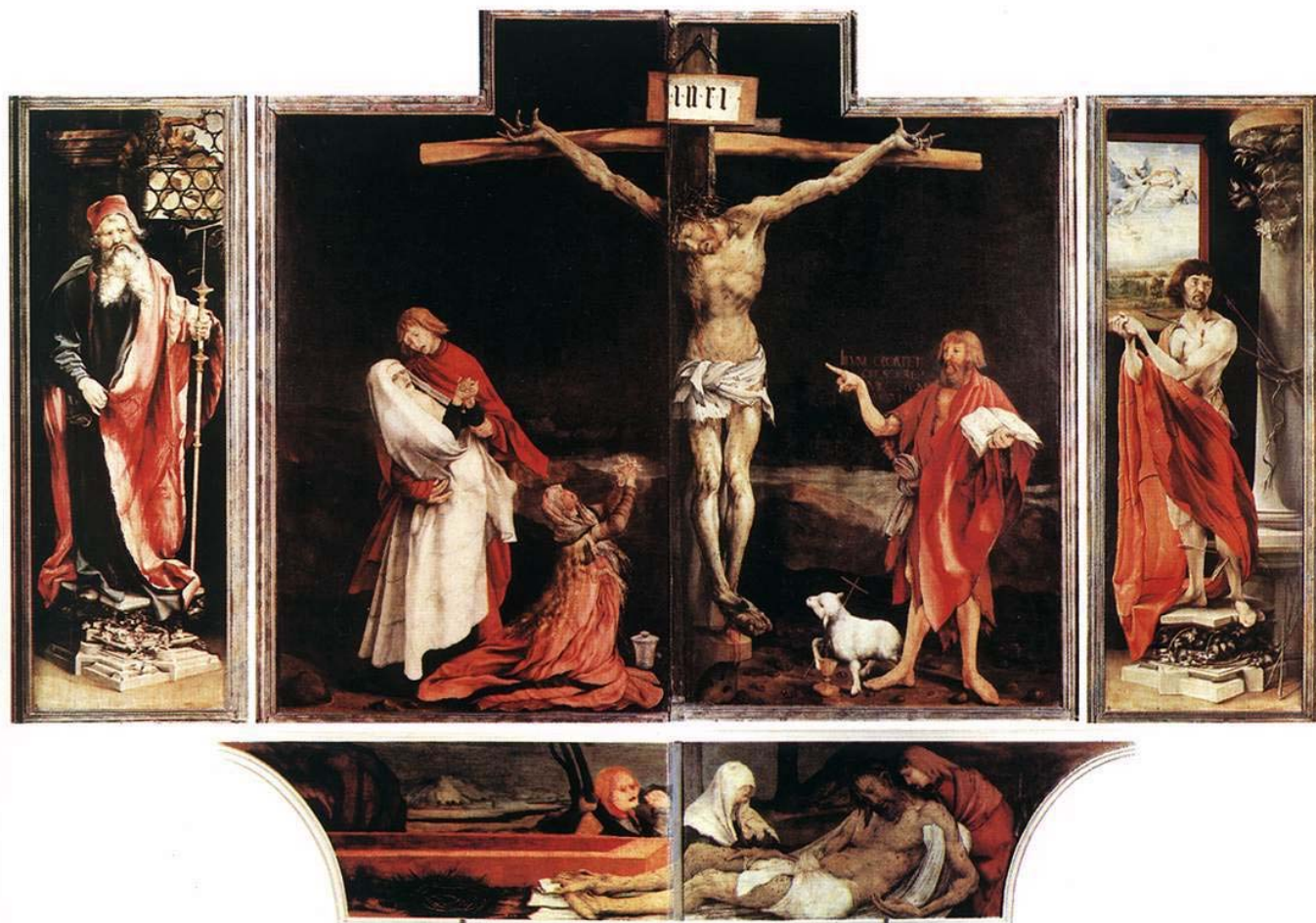
ちなみに手前のチェロかヴィオラ・ダ・ガンバを弾いている天使の弓が…あり得ない持ち方なんです…しかも奥のブロンズカラーの鳥人?はどう見ても天使じゃなさそう(と言うより古の魔神パズスに似ている)なんです(^^;;

交響曲では、ごく短い前奏の後、トロンボーンがドイツ民謡「3人の天使は歌う」の旋律を吹きます。

(歌詞は調べてみたのですが、「3人の天使は歌う…」という出だし以外よく分かりませんでした(^^;)

ちなみに次の定演曲マーラー交響曲第3番で、第5楽章の歌の「子供の魔法の角笛」上でのタイトルも「3人の天使は歌う」でしたが、それとこの画家マティスの歌(歌詞)が関連するのかどうか分かりませんでした(^^;)

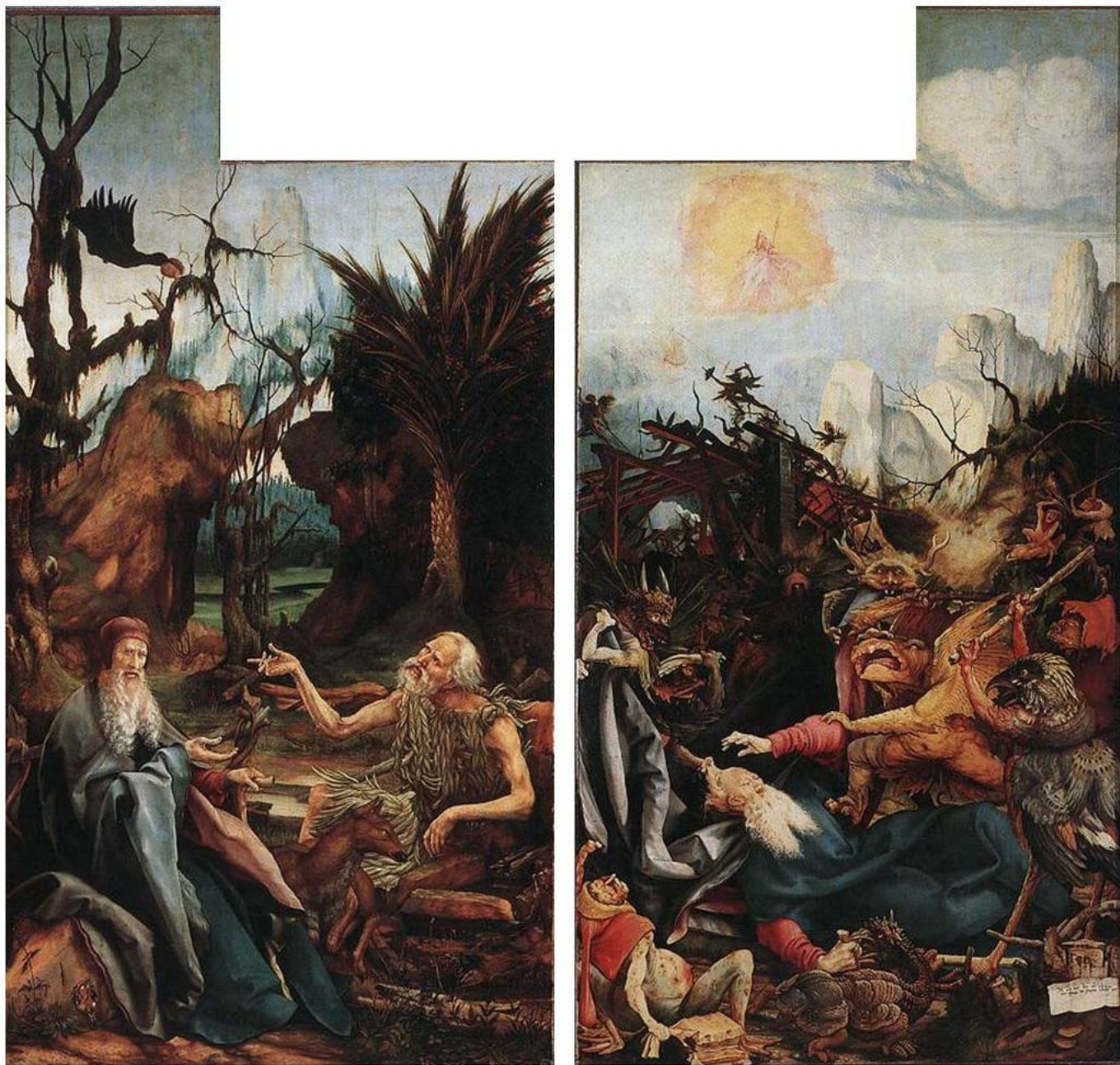
第二楽章: 埋葬



こちらは交響曲「画家マティス」第2楽章のタイトル「埋葬」に相当すると思われる「磔刑に処されるイエス・キリスト」(上段)と「ピエタ」(下段:亡骸のイエスを抱えて嘆く聖母マリア)です。ミケランジェロの絵やピエタとは全く違って、実に写実的な描写となっています。

ちなみに十字架の上に掲げられた札の文字は、処刑された者「イスラエルの王、ナザレのイエス」(IESUS NAZARENUS REX IUDAEORUM)を意味する言葉の頭文字と言われます。

第三楽章: 聖アントニウスの誘惑(試練)



右の絵が「聖アントニウスの誘惑」です。(倒れて暴行を受けている白髪の老人が聖アントニウス)
ちなみに左の絵は、聖アントニウスとキリストの直弟子、聖パウロとの会合(もちろんお互いの時代が異なるので、空想上の出来事)ですが、姉妹作のオペラ「画家マティス」ではこの絵も重要な意味を持ちます。

はっきり言って、16世紀に描かれたとは思えないほどの写実性と狂気に満ちあふれた絵です。。
こんなのをイメージされたら一番の激ムズ曲になるのも無理はないです(ー_ー;;

ちなみにこの絵はエジプト出身の聖人、聖アントニウス(251-356、修道士の祖とされる)が苦行で受けた悪魔の誘惑、そしてそれらを必死で振り払おうとする聖人を描いています。

絵に描かれた化け物は、キリスト教の「七つの大罪」を象徴した悪魔とされています。

赤塚不二夫が描いたようなマヌケ面の「怠惰(ロバ?)」や、椋図かずおが描いたような鳥キャラ「傲慢(グリフォン)」、そして恐竜チックな「憤怒(サタン)」が際立ってます(^^;;

(次ページの拡大写真参照)

上記以外にも悪魔は他の箇所にも描かれていて、左下の病に冒された道化師風の小男は「聖アントニウスの火」(中世当時の麦角(麦で増殖する菌の一種で毒素を作る)中毒の呼び名で、火の粉のような赤い発疹が特徴)に侵されています。その横には、聖アントニウスの手を噛む鳥と亀のキメラのような化け物なども描かれています。

ちなみに、絵の右下の紙片には、以下の言葉が書かれており、交響曲「画家マティス」第3楽章の冒頭にも同じ言葉が書かれています。

この様な苦難に遭いながらもいっこうに助けようとしないう神への恨みとも言えるような言葉です。。。(楽章冒頭の弦楽器のレチタティーヴォ風の旋律は、まさにこの恨み節を歌ったのかも(苦笑))

Ubi eras Ihesu bone ubi eras quare non affuisti ut sanares vulnera mea

(主イエスよ、何処に？ 何処におられたのですか？ なぜ私を癒しに来てくれなかったのですか？)

交響曲では、聖アントニウスを誘惑し、災いを与える「七つの大罪」が大暴れした後、神による救いを予感させるミサ曲(聖体の続唱(セクエンツィア))「ラウダシオン(Lauda Sion Salvatorem)」が木管楽器で演奏されます。(練習番号 31 から「Alleluia」の前まで)

「ラウダシオン(Lauda Sion Salvatorem)」の詳細は、以下のページをご参照ください。

<http://blogs.yahoo.co.jp/sacerdosaeternus/46113315.html>

(聖アントニウスを苦しめる「七つの大罪」)



前ページで紹介した悪魔の絵の拡大写真です。

恐竜チックな「憤怒(サタン)」の上におどけた丸顔で描かれているのは「七つの大罪」の一つ「暴食(豚?)」です。

ちなみにキリスト教で言う「七つの大罪」とは、「暴食(gluttony)」「色欲(lust)」「強欲(greed)」「憤怒(wrath)」「怠惰(sloth)」「傲慢(pride)」「嫉妬(envy)」です。

人気漫画だった「鋼の錬金術師」のホムンクルス(人工的に錬成又は改造された亜人種)の名前や、週刊少年マガジンの同名の漫画(「七つの大罪」)でも有名になりましたね。。。

新約聖書「ヨハネの黙示録」では、これらの大罪が具現化した化け物と神とのハルマゲドン(「メギドの丘」と直訳される神と悪魔の最終決戦地)での戦いが描かれています。

以上
(作成: 岩田倫和(Vc))